



TITLE:

表紙・編集後記・目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・編集後記・目次. 英文学評論 1960, 7

ISSUE DATE:

1960-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/134928>

RIGHT:

英文學評論

第 VII 輯

- ドライデンの詩的展開……………山 村 武 雄
- ハーディの短詩をめぐって……………増 山 学
- 孤塔の詩人イエイツ (その二)……………大 浦 幸 男
- D. H. ローレンス—問題と応答……………寺 田 建 比 古
- Literature and Democracy ……………Roger G. Matthews

京都大学教養部英語教室

目次

ドライデンの詩的展開……………	山村武雄……………(一)
ハーディの短詩をめぐって……………	増山学……………(三)
孤塔の詩人イエイツ (その二)……………	大浦幸男……………(五)
D・H ローレンス — 問題と応答……………	寺田建比古……………(一〇四)
Literature and Democracy……………	Roger G. Matthews… (1~31)

編輯後記

例年のことながら、編輯はすらすとは運ばない。最初の企画では、本号には七篇の論文をのせることになつていたが、種々の事情からそのうち三篇をあきらめねばならなくなつた。そこで初めから分載を覚悟で長篇をのこして留学された山村氏の研究を一度にのせ、それに長らく発表の機会を待つて居られた寺田氏の力作を新たに加へ、従来問題となつていた長い研究の発表という課題を一応解決したいと考えた。ところが最後になつて予算の枠内に収まらぬことが明かとなり、土俵をわつた形となつたのは、委員の不手際としてお詫びしなければならぬ。結局、山村氏の研究は、同氏が予め指定しておかれた箇所で二分し、次号完結ということになつた。

久しぶりの英文のエッセイは、マッシュューズ氏が本誌にのこされる恐らく唯一のものとならう。数少い有能な本場からの学究として、ひく手あまたな多忙な生活を實に良心的に送つて居られる同氏からは、これ以上の寄稿をお願いできなかつたといへ、まことに残念である。

本年は劈頭四月に村上至孝氏が阪大に転出されるという大事件で始まり、山川鴻三、増山学、安藤昭一の新鋭三氏を迎えて陣容が固まつたのが九月、その月に先にふれたように山村武雄氏が文部省の留学者としてオクスフォードに向われ、十二月には池田義一郎氏の還暦を一同で祝うという多事多端の年であつたが、この多事多端は今後もしばらく続くであらう。なお山村氏は教授に昇進され、同氏にとつて本年度はまさに「最良の年」であつた。

(編輯委員)

英文学評論 第七輯

非売品

昭和三十五年三月二十五日 印刷
昭和三十五年三月三十日 發行

編輯者

京都大学教養部英語教室

代表者 山崎 正雄

印刷所

内外印刷株式会社

京都市下京区西洞院七条下ル

發行所

京都大学教養部英語教室

京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

VOL. VII. March 1960

CONTENTS

The Comparative Study of Dryden's Imagery.....*Takeo Yamamura*

On The Criticism of Hardy's Shorter Poems.....*Satoru Masuyama*

W. B. Ycats, Poet of the Lonely Tower (2).....*Yukio Oura*

D. H. Lawrence: An Approach.....*Takehiko Terada*

Literature and Democracy*Roger G. Matthews*

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY